

令和8年度入試問題
(学校型推薦型選抜 II) (地域枠学校推薦型選抜) (緊急医師確保対策枠学校推薦型選抜)
小論文 (出題意図) (解答例)
<医学部医学科>

1

設問 1

【出題意図】

文章を分析し、重要点を抽出する能力を問う。

【解答例】

健康情報を、入手し、理解し、評価し、活用する能力

(24 字)

設問 2

【出題意図】

文章を分析し、重要点を抽出する能力を問う。

【解答例】

日本では 2004 年までプライマリ・ケア医あるいは家庭医を養成する教育制度は存在していなかったため、プライマリ・ケア医あるいは家庭医としての訓練を十分に受けた医師が不足しているから。

(88 字)

設問 3

【出題意図】

文章の内容を理解し、論理的に考える能力を問うと共に、設問 4 の解答を構築する基盤を与える。

【解答例】

プライマリ・ケアが十分でないため、健康に関する知識について十分教育を受けていない。意思決定がそもそも得意ではなく、情報に基づく意思決定のスキルが不足しており、学校での教育も不足している。

(93 字)

設問 4

【出題意図】

日本のヘルスリテラシーは低いと言われており、医師を目指す者として問題意識を持つべ

きである。日本のヘルスリテラシーを高めるために論理的に考察する力や、思考力を問う。

【解答例】

ヘルスリテラシーは、健康情報を入手、理解、評価、活用する能力であり、HLS-EU-Q47では、日本のヘルスリテラシーはEUの8か国と比べて低いという調査結果が出た。では、日本のヘルスリテラシーを高めるために必要な事は何か、私の考えを述べる。

まず、日本のヘルスリテラシーが低い理由について考察する。本文では理由の1つとして、日本のプライマリ・ケアの不十分さを挙げている。日本では、プライマリ・ケアを実践するプライマリ・ケア医や家庭医が不足しており、その理由は、日本では2004年までプライマリ・ケア医あるいは家庭医を養成する教育制度は存在していなかったからである。

また、自分で意思決定する力を身に付けるスキルが不十分である事も挙げている。日本人はそもそも意思決定が得意ではなく、2020年以降の新しい学習指導要領になるまで意思決定に関する教育が十分に行われてこなかった事がある背景にある。

以上より、プライマリ・ケア医や家庭医を増やす事と、意思決定に関する学校教育を十分に行う事が、日本のヘルスリテラシーを高めるために必要と私は考える。

(459字)

2

【出題意図】

全体： 出題文を要約、引用するのではなく、自らの経験や考えを記述するような設問とした。

設問1：設問文を理解し、初等中等教育での学習過程を振り返り、学びの変化について自分の言葉で表現することを求めた。

設問2：成人学習理論は、医学生に求められる能動的学習の基本的な考え方である。成人学習理論を正しく理解し、「教えられる学び」から「自ら修得する学び」への変化にどのように対応するか、自分の言葉で表現することを求めた。

【解答例】

設問1：高等学校の理科の授業で、水質調査をテーマにしたグループ実験を行った。目的に合致した調査計画を自ら立て、川の水を採取・分析し、結果を討論・考察・発表する過程を経験したことが、授業を受けるという受動的な学びから課題を発見し探究する能動的な学びへと変化するきっかけとなったと感じている。この授業の中で、主体的な学びの重要性を実感するとともに、科学的思考や問題解決能力を修得していきたいと考えるようになった。

設問2：成人学習理論、すなわち自己主導型学習に基づく学びは、これから医学を学ぶ私の学習スタイルに大きな変化をもたらすと考える。成人学習理論では、学習者が自らの経験を活かし、目的意識を持って主体的に学ぶことが重視されており、授業や講義を聴くという知識伝授型の受動的な学習から、臨床現場や社会とのつながりを意識した実践的・問題解決型の学びへと移行する必要がある。例えば、医学の知識をただ暗記するのではなく、患者の事例や実際の症例を通じて「なぜこの治療が選ばれるのか」「どのような倫理的判断が求められるのか」といった問いを立て、自ら調べ、考え、議論、発表する姿勢が求められていくと考える。また、成人学習では内発的動機づけが重要とされており、「医師としてどう社会に貢献するか」「目指す医師になるために何をするか」等という自分の目標を明確にすることで、学びへの意欲も高まると感じる。成人学習理論に基づく学びは、知識の習得だけでなく、経験と目的を結びつけた深い理解と応用力を育む学習スタイルへと私を導いてくれると考えている。まさに「学んだことの証しは、ただ一つで、何かがかかわること」を体現していくことになると思う。